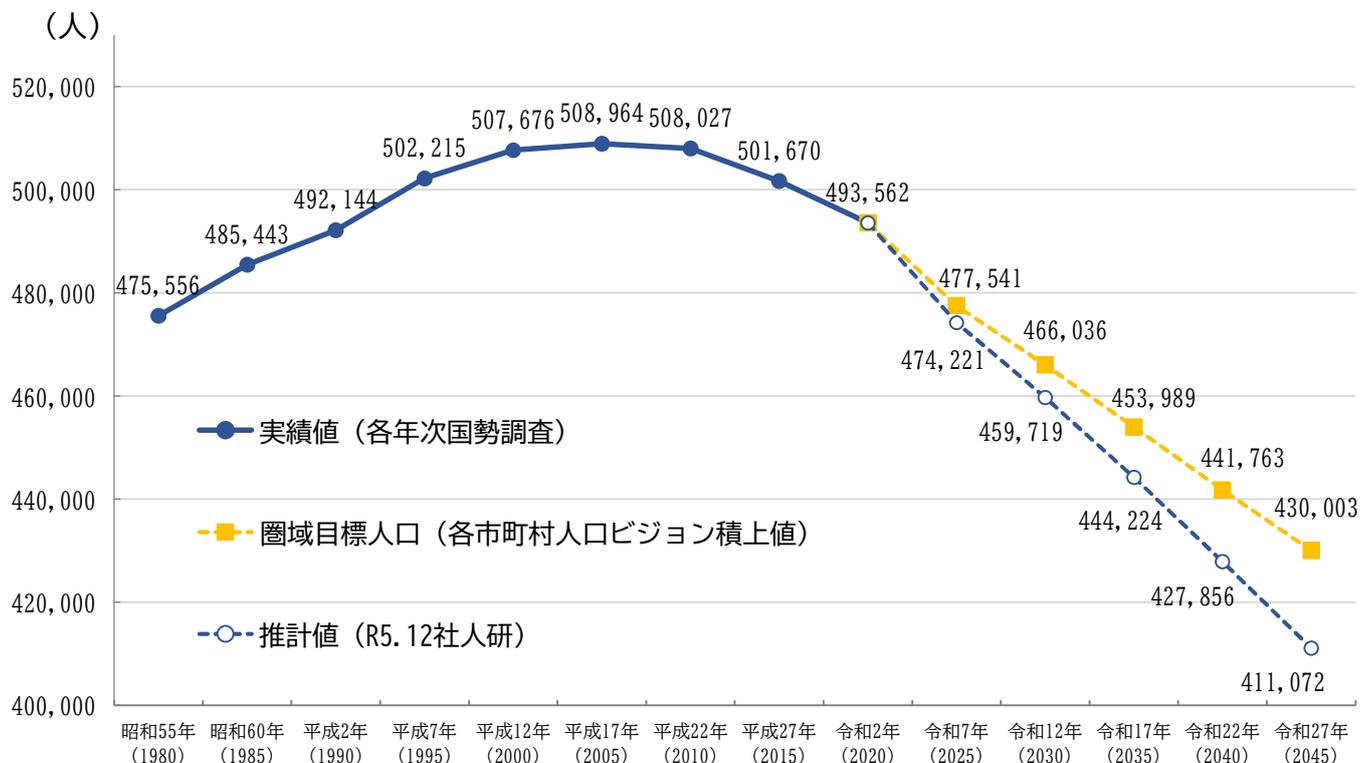


圏域内の人口について

1 圏域の総人口の推移と将来の目標人口

- ・ 圏域の人口は平成17（2005）年の508,964人をピークに減少に転じている。
- ・ 令和27（2045）年の各市町村の目標人口の合計は430,003人で、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計値411,072人（令和5年12月推計）と比べ約18,900人多く設定している。

区分	実績値					圏域目標人口		
	昭和55年 (1980)	平成2年 (1990)	平成12年 (2000)	平成22年 (2010)	令和2年 (2020)	令和12年 (2030)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)
富山市	391,554	408,942	420,804	421,953	413,938	391,036	372,866	364,073
滑川市	30,744	30,923	33,363	33,676	32,349	32,521	31,724	31,357
舟橋村	1,360	1,371	2,153	2,967	3,132	3,179	3,201	3,179
上市町	24,028	23,671	23,362	21,965	19,351	17,100	14,872	13,794
立山町	27,870	27,237	27,994	27,466	24,792	22,200	19,100	17,600
圏域計	475,556	492,144	507,676	508,027	493,562	466,036	441,763	430,003



出典：・ 総務省「国勢調査（各年次）」

（※ 富山市の昭和55年から平成12年までの値は合併前の市町村の値を合算）

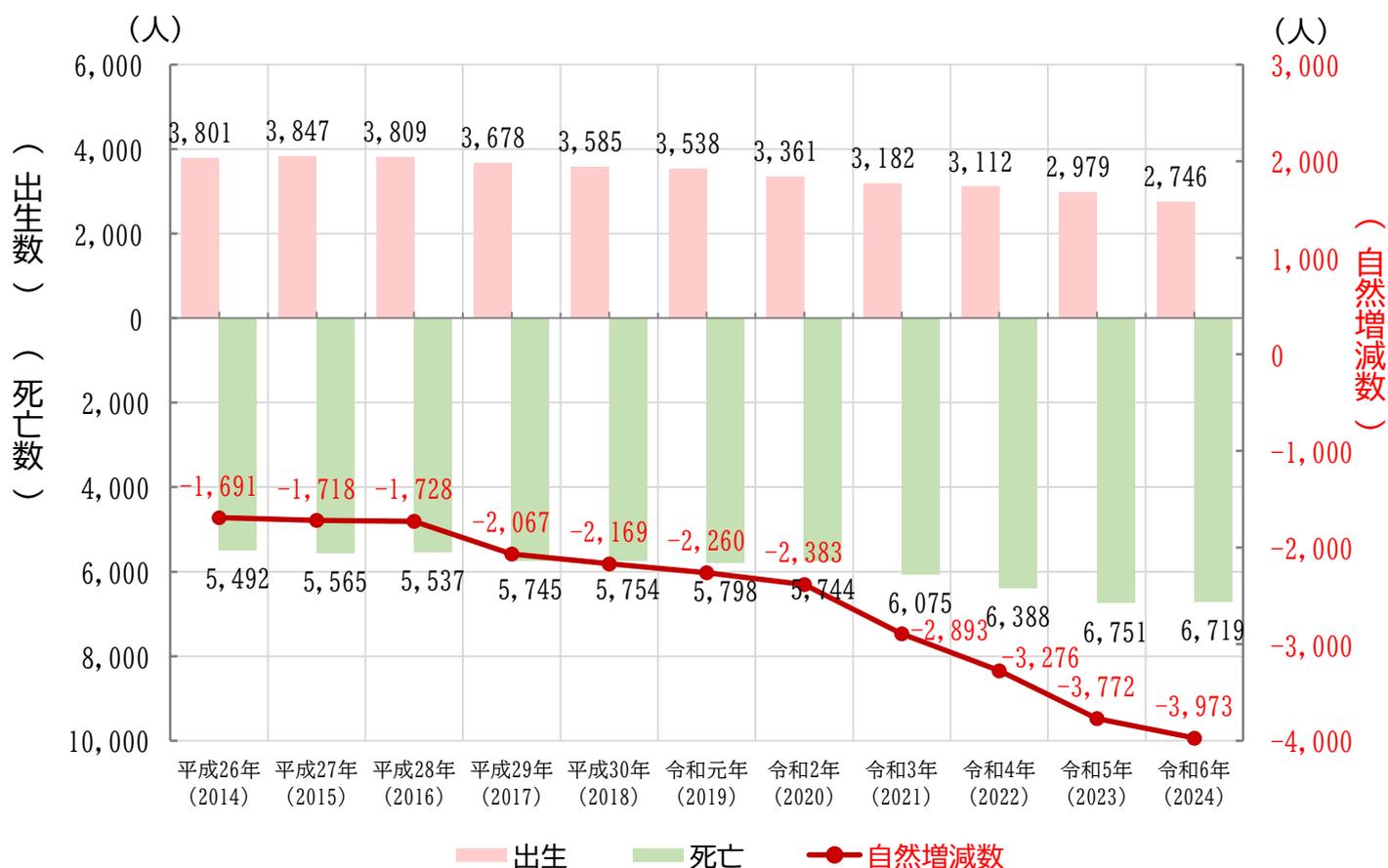
- ・ 各市町村の人口ビジョン
- ・ 社人研「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

2 圏域の人口動態

(1) 自然動態の推移

- ・ 少子高齢化の進行により、圏域の自然動態は出生数が減少し、死亡数が増加の傾向をたどっており、自然減が拡大する傾向で推移している。

区分	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
出生	3,801	3,847	3,809	3,678	3,585	3,538	3,361	3,182	3,112	2,979	2,746
死亡	5,492	5,565	5,537	5,745	5,754	5,798	5,744	6,075	6,388	6,751	6,719
自然増減数	-1,691	-1,718	-1,728	-2,067	-2,169	-2,260	-2,383	-2,893	-3,276	-3,772	-3,973

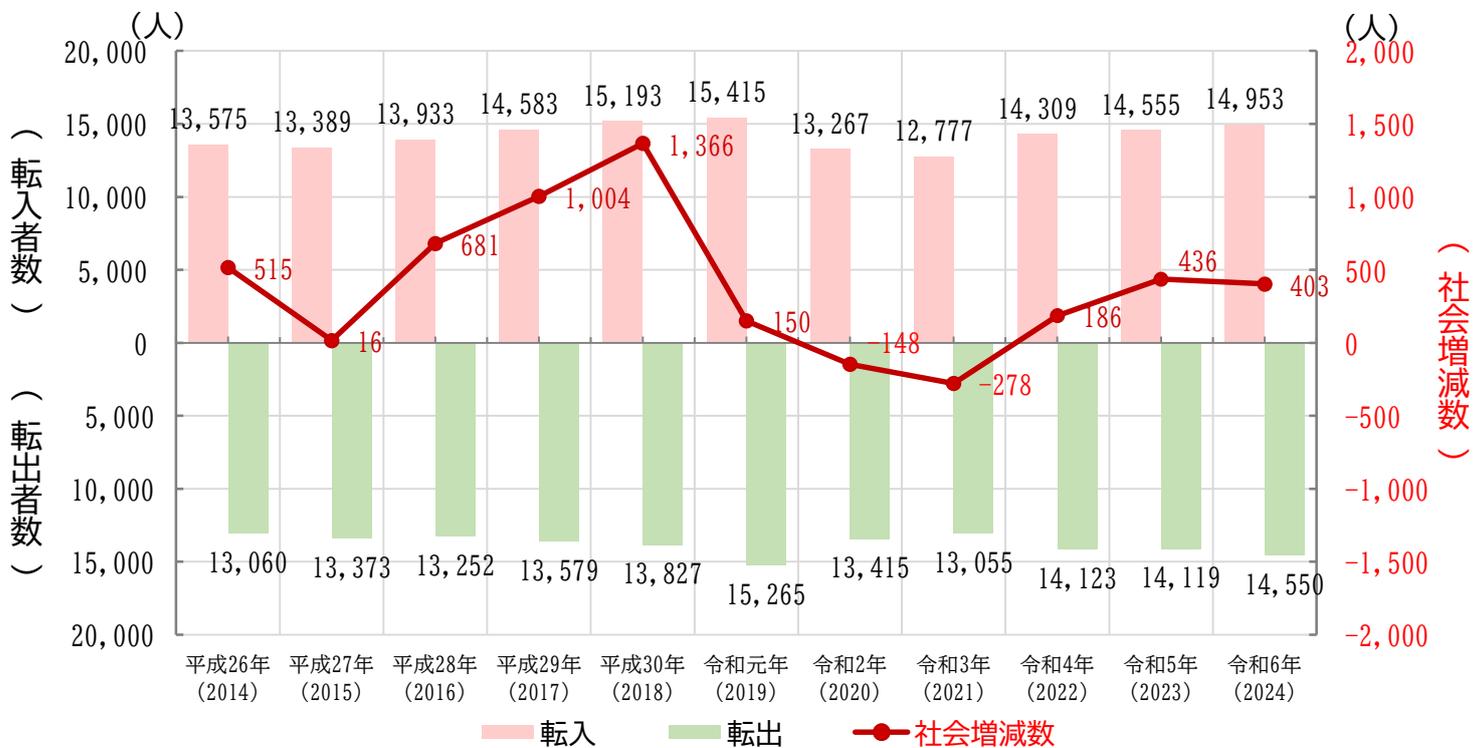


出典：富山県「人口移動調査（各年次）」（各年10月1日から9月30日までの移動数）

(2) 社会動態の推移

- ・ 圏域の社会動態は、総じて転入超過で推移しているが、令和2（2020）年から令和3（2021）年にかけて、新型コロナウイルス感染症の拡大により入国が制限された外国人の減少等の影響もあって転出超過となっている。その後、令和4（2022）年には再び転入超過に転じているが、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準には戻っていない。

区分	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
転入	13,575	13,389	13,933	14,583	15,193	15,415	13,267	12,777	14,309	14,555	14,953
転出	13,060	13,373	13,252	13,579	13,827	15,265	13,415	13,055	14,123	14,119	14,550
社会増減数	515	16	681	1,004	1,366	150	-148	-278	186	436	403



出典：富山県「人口移動調査（各年次）」（各年10月1日から9月30日までの移動数）

※ 図表中の転入・転出者数は、圏域内各市町村の転入、転出数を単純に合計したものであり、圏域内市町村間の転出入者数も含む。

※ 外国人を含む。

※ 本集計データの転入・転出者数及び社会増減数については、出典（集計方法等）の違いにより、次頁(3)との間に差が生じている。

(3) 圏域外からの転入・転出状況

- ・ 転入者数と転出者数はともに20代・30代が多く、若い世代は転出超過となっている。10代・20代では進学、就職などによる転出が多いものと推察される。
- ・ 平成30年と令和6年を比較すると、20代の転出超過が増加している。

【平成30年】

区分	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳/他	合計
転入者数	932	668	4,041	2,282	1,299	652	548	14	10,436
転出者数	957	810	4,543	2,372	1,271	638	485	9	11,085
社会増減数	-25	-142	-502	-90	28	14	63	5	-649



【令和6年】

区分	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不詳/他	合計
転入者数	698	676	4,363	2,017	1,130	883	694	17	10,478
転出者数	754	887	5,127	2,148	1,028	812	586	16	11,358
社会増減数	-56	-211	-764	-131	102	71	108	1	-880



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」(毎年1月1日から12月31日までの移動数)

※ 外国人を含む。 ※ 圏域内市町村間での転出入者は含まない。